

第6期 小金井市地域自立支援協議会 部会活動報告

協議テーマ	医療的ケア児、不登校児童・生徒について、他
開催回・開催日	7月16日(水)
記録担当委員名	生涯発達支援部会 佐藤宮子

【協議概要】

1、不登校児童・生徒への支援体制について

* 前回、小金井市では不登校児の割合が、都平均・国平均に比べ多いとの議論があったが病欠の数と合わせると、同じ程度の割合になるので、資料に対しての考え方によっては、特別多いというわけではないとも考えられるのではないかと。

* 不登校になる前の対応として、学校に対しての満足度アンケート（QUアンケート）がある。おとなしく目立たない子に対する対応が求められているとも思う。

* 学校復帰ばかりを目標とすると、かえって子どもを追い詰め、ひきこもりなどにつながることも多いので、発想を変えるのも必要。

● 学校にも支援施設にも通えない児童・生徒への支援

川崎市の夢パークを見学に行った。この形になるまでは様々な困難があったというが、現状ではとても良い形に思った。中学で不登校だった子も高校に通う事ができていて、それを見ている年下の子どもたちも、高校に行けるといような感覚を持てるようになっていく。一緒に食べる・過ごせることがよい。安心できる場所で、よく遊び、よく食べることでその子が本来持っている生きる力を取り戻すことができる

● ハード面が充実しても、そこに向かうまでのハードルが高い。つなぐ人、居場所になる人が必要。そういった人材の育成が急務

2、医療的ケア児の支援体制について

① 議会に上がっている陳情について

このような件については、ぜひ自立支援協議会に情報提供してほしい。情報を共有したうえで考えていきたい。

② 医療的ケアを必要とする子どもを持った保護者の現状と課題

○ いろいろな面での情報の格差があって、諦めることなどもあるので、情報を共有化して具体的な取り組みが進むと良い。学習会などするのもよいと思う。

→ 1月(?)の専門部会を1時間程度前倒しして、行政・専門医などの情報をシェアするような学習会をしてみてもどうか

○ 現状としては、学校・学童で差がある。幼稚園では7割が受け入れていると思う。

○ 呼吸器系の場合は、家族付き添いが当然のように捉えられているが、それも変わっていくべきだろう。

○ 医療的ケアといっても、導尿や胃ろうの場合は、横断的な制度にすれば、クリアでき

る体制が作れる。国の包括ケアシステムについての情報は届けてはいるが追いついていない。

※「第5期障害者福祉計画」の（4）医療型児童発達支援と（7）「医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置」についてどのように進めるのか
→具体的には話し合えず、今後に

3、全体として協議する課題

①障害者差別解消条例一周年記念と障害者週間シンポジウムの企画

1周年記念の事業を10月にやるには、開催までの時間が足りないので、3月に今年度のまとめ企画をしてはどうか

障害者週間の企画は、午前中にDET研修、午後はボッチャ体験にほぼ決定。

②合理的配慮好事例集作成の方法と計画

国や都の事例集から集めるのではなく、事例の集め方が大切
良い事例を共有することで意識を高める効果が期待できる

【課題となった事項の整理】（協議概要での記載と重複する点あり）

1、不登校児童・生徒への支援体制について

目立たない子に対する対応が必要。

良い事例を見学に行くのもよい。

2、医療的ケア児の支援体制について

情報共有の必要性があるので、まず学習会を行うのはどうか

3、全体として協議する課題

①1周年記念は、1年間のまとめにし、3月に行うのはどうか

②好事例集の取り組みについては、今年度の課題整理で目いっぱいなので、次年度への引き継ぎ事項とする

4、その他

難病の手当てに関する、その後の議会の動きなどについての情報提供が必要。

医療ケア児に関しての議会の情報など、市内の動きで自立支援協議会に係るものは、キチンと報告してほしい。

【次回の協議内容予定】

①今回の課題に関する情報の共有

②課題の整理で出た企画について、具体的内容の決定。

【次回の開催日程】

8月29日